

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

医学部看護学科では、大学の理念及び医学部の理念・教育目的・人材育成目標に基づき、看護学科生が卒業時に達成すべき学修成果を「アウトカム」(3項目)として掲げ、それらを達成するために4年間で修得すべき能力を「コンピテンシー」(大領域8項目、小領域34項目)として設定しています。

所定の期間在学し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定した授業科目を履修し、履修規定で定められた卒業に必要な単位・時間数を修得し、知識・技能・態度の評価において、コンピテンシーで定められた能力を修得しアウトカムを達成したと認めたものに学位を授与します。

アウトカム

1. 医療人としての態度

生命と人間の尊重を第一義とする倫理観・責任感と、良識ある人間性を有し、医療・保健・福祉チームの構成員として、共感力、多様性とコミュニケーション力を備えた対象者中心の看護を実践できる。

2. 医療人としての知識・技能

医療・保健・福祉分野における高度専門職業人として、看護学及び関連領域の知識と技能を応用して、科学的根拠に基づいた適切なヒューマンケアを実践できるとともに、日々進歩する医学・看護学的知識・技能を、生涯に渡って学修することができる。

3. 医療人としての地域性・国際性

地域（特にふくい）の社会的ニーズを踏まえた地域医療・ケアを実践できるとともに、グローバルな視点に立ってふくいの地域医療に貢献できる。

コンピテンシー

(1) 人間性の形成とコミュニケーション

対象者中心の看護を展開するため、人間性の基盤となる教養的知識を有し、共感と多様性に基づく人間関係の構築、適切なコミュニケーションを実践できる。

(2) 全人的理解とプロフェッショナリズム

対象となる人及び集団の健康、生活、環境を包括的に理解し、医療・保健・福祉における高度専門職業人としての価値観と責任感を有し、礼節ある態度・良識と、自己管理能力をもって行動できる。

(3) 看護倫理とヒューマンケア

生命と人間の尊重を第一義とする倫理観を持ち、人々の尊厳・権利擁護を考慮し、対象者の意思決定に基づく看護を、敬意をもって実践できる。

(4) 看護学及び関連領域の知識と根拠に基づいた看護実践

看護学及び関連領域の知識に基づいた看護技術を用いて、身体的、心理・社会的安楽をもたらす、効果的かつ安全な看護を実践できる。

(5) 特定の健康課題に対応する看護実践

看護の社会的役割を理解し、対象者のライフステージ、健康レベル、特定の健康課題に対応した看護を実践できる。

(6) 科学的思考と生涯にわたる看護の探求・研鑽

看護学研究の意義を理解し、科学的根拠に基づいた看護実践のため、情報の収集と評価のための論理的・批判的思考ができる。そのために、自ら学ぶ意欲とリサーチマインドを持ち、生涯に渡って学修する基本的能力を有する。

(7) 多様なケア環境・地域特性と支援チーム体制・協働

対象者の文化的背景、地域特性を考慮した支援チーム構築のため、医療・保健・福祉に関わる人々の役割を認識・理解し、チーム構成員として看護職同士・多職種・地域住民と協働・連携することができる。

(8) ふくい看護力

ふくいの風土、医療・保健・福祉の実情、社会的ニーズを踏まえて、ふくいに暮らす生活者の視点に立ち、ふくいの健康課題、へき地での医療課題に対応可能な看護を実践できる。また、学生間で指導・相談対応ができる。

各アウトカム達成に必要な能力をコンピテンシー大領域として定め、拡大領域のもとにさらに具体的な能力としてコンピテンシー小領域を設定しています。

コンピテンシー小領域、アウトカムとコンピテンシーの対応は、別表「看護学科アウトカム・コンピテンシー対応表」に示します。

(別表)看護学科アウトカム・コンピテンシー対応表

アウトカム1 医療人としての態度		
生命と人間の尊重を第一義とする倫理観・責任感と、良識ある人間性を有し、医療・保健・福祉チームの構成員として、共感力、多様性とコミュニケーション力を備えた対象者中心の看護を実践できる。		
コンピテンシー(1) 人間性の形成とコミュニケーション		
対象者中心の看護を展開するため、人間性の基盤となる教養的知識を有し、共感と多様性に基づく人間関係の構築、適切なコミュニケーションを実践できる。		
①	一般教養	人間や社会、科学、文化に関する教養的知識を有し、豊かな人間性の形成に努めることができる。
②	共感力	人の行動と心理の基本を理解し、相手の立場に立って考え、話を聴き、尊重と思いやりの心を持って、他者に共感できる。
③	コミュニケーション力	コミュニケーションの基本を理解し、対象者、その関係者と信頼関係を築き、コミュニケーションを実践できる。
④	プレゼンテーション力	修得した知識や情報、自己の意見を明確に伝え、質問に的確に対応できる。
⑤	英語力	コミュニケーションに必要な基礎的英語力を持つ。
コンピテンシー(2) 全人的理解とプロフェッショナリズム		
対象となる人及び集団の健康、生活、環境を包括的に理解し、医療・保健・福祉における高度専門職業人としての価値観と責任感を有し、礼節ある態度・良識と、自己管理能力をもって行動できる。		
①	全人的対象理解	人間、生活、健康、環境及び各々の関連を踏まえ、対象者をアセスメントできる。
②	多様性	対象者とその関係者の心理・社会・文化的背景と価値観を理解し、多様性を受け入れることができる。
③	自己管理	自己の生活を整え、健康を管理できる。
④	課題対応	自ら知識や情報を修得し、それをもとに課題の抽出、目標設定、解決ができる。
⑤	礼儀とマナー	適切な身だしなみや言動、社会のルールやマナー、常識に従って、礼節ある態度・行動をとることができる。
⑥	使命感	看護職として使命感を持ち、責任感を持って行動できる。
⑦	看護の法的基盤	関係法規を理解し、看護における法的責任・規範を遵守できる。
コンピテンシー(3) 看護倫理とヒューマンケア		
生命と人間の尊重を第一義とする倫理観を持ち、人々の尊厳・権利擁護を考慮し、対象者の意思決定に基づく看護を、敬意をもって実践できる。		
①	倫理観	看護における倫理的問題を理解し、倫理的原則に基づいて行動できる。
②	尊厳・権利擁護	対象者の尊厳と権利を擁護するための援助的人間関係を形成できる。
③	説明責任	対象者に看護行為について適切に説明し、同意を得ることができる。
④	意思決定支援	対象者の価値観を尊重し、意思決定を支援できる。
アウトカム2 医療人としての知識・技能		
医療・保健・福祉分野における高度専門職業人として、看護学及び関連領域の知識と技能を応用して、科学的根拠に基づいた適切なヒューマンケアを実践できるとともに、日々進歩する医学・看護学的知識・技能を、生涯に渡って学修することができる。		
コンピテンシー(4) 看護学及び関連領域の知識と根拠に基づいた看護実践		
看護学及び関連領域の知識に基づいた看護技術を用いて、身体的、心理・社会的安楽をもたらす、効果的かつ安全な看護を実践できる。		
①	対象理解の基礎科学	自然科学・行動科学・社会科学の知識を修得し、対象者理解のために応用できる。

②	看護実践の専門基礎科学	主要な健康障害について、病態と回復過程、診断に用いる検査・治療に関する看護実践を説明できる。
③	看護技術	基本的看護技術を適切に実践できる。
④	看護過程の展開	対象者の生活歴、病歴及び経験や意向に沿ったニーズを正確に把握し、対象者を多面的にアセスメントできる。根拠に基づき適切な看護計画を立案し、目標達成に向け看護を実践できる。
⑤	看護の質と安全	医療安全の知識を持ち、対象者及び医療者の安全・安楽を考慮し、対象者の Quality Of Life 向上をもたらす看護を実践できる。
コンピテンシー(5) 特定の健康課題に対応する看護実践		
看護の社会的役割を理解し、対象者のライフステージ、健康レベル、特定の健康課題に対応した看護を実践できる。		
①	ライフステージ	発達段階・ライフステージに応じた看護を実践できる。
②	健康レベル	健康生活の保持と健康障害の予防に貢献できる。また、急激な健康破綻と回復、慢性疾患及び慢性的な健康課題、エンドオブライフ期に応じた看護を実践できる。
③	在宅看護	地域社会のニーズに対応した在宅看護が実践できる。
コンピテンシー(6) 科学的思考と生涯にわたる看護の探求・研鑽		
看護学研究の意義を理解し、科学的根拠に基づいた看護実践のため、情報の収集と評価のための論理的・批判的思考ができる。そのために、自ら学ぶ意欲とリサーチマインドを持ち、生涯に渡って学修する基本的能力を有する。		
①	科学研究	科学研究の理論・方法論を理解し、科学的根拠に基づく論理的・批判的思考ができる。
②	科学的探究心	看護における課題対応のための科学的な探究心を持つ。
③	生涯学修	日々進歩する看護学的知識・技能を、生涯に渡って学修する基本的能力を有する。

アウトカム3 医療人としての地域性・国際性

地域（特にふくい）の社会的ニーズを踏まえた地域医療・ケアを実践できるとともに、グローバルな視点に立ってふくいの地域医療に貢献できる。

コンピテンシー(7) 多様なケア環境・地域特性と支援チーム体制・協働

対象者の文化的背景、地域特性を考慮した支援チーム構築のため、医療・保健・福祉に関わる人々の役割を認識・理解し、チーム構成員として看護職同士・多職種・地域住民と協働・連携することができる。

①	チーム医療	医療チームの構成員として、メンバーと協調性を持って良好な人間関係・チームワークを築くことができる。
②	多職種連携	医療・保健・福祉チームに関わる各職種の役割と専門性を理解し、互いに尊重できる。
③	地域包括ケア	地域ケア構築の必要性和地域包括ケアにおける看護の役割を理解し、地域住民と連携し協働できる関係を構築できる。
④	グローバルな視点	異文化・異社会に関心を持ち、グローバルな視点で看護を実践できる。

コンピテンシー(8) ふくい看護力

ふくいの風土、医療・保健・福祉の実情、社会的ニーズを踏まえて、ふくいに暮らす生活者の視点に立ち、ふくいの健康課題、へき地での医療課題に対応可能な看護を実践できる。また、学生間で指導・相談対応ができる。

①	ふくいの医療・保健・福祉	ふくいの医療・保健・福祉の現状と課題を把握し、説明できる。
②	へき地医療	へき地の地域特性に応じた看護実践ができる。
③	指導力・相談対応力	学生間で看護学の知識・技能・態度に渡る指導・相談対応ができる。